

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/06/02

NZは金利引き締めペースを確認

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	手掛かり材料を待つ展開 予想レンジ: 92.100 ~ 97.400 円	2 - 3
<u>NZドル/円</u>	➡	RBNZは金利引き締めペースに注目 予想レンジ: 84.000 ~ 89.000 円	4 - 5
<u>ランド/円</u>	↘	ストの影響が实体经济に波及 予想レンジ: 9.100 ~ 9.900 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



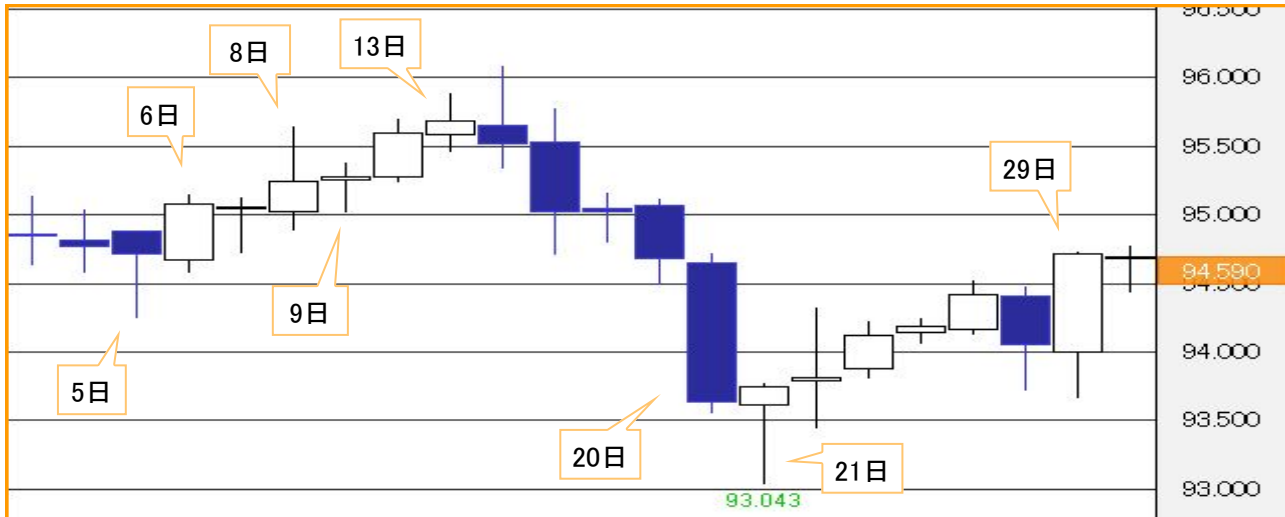
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 5月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	94.869円	96.084円	93.043円	94.702円



5日	豪3月住宅建設許可件数が前月比-3.5%、中国4月HSBC製造業PMIは48.1といずれも予想(+1.5%、48.4)を下回り、豪ドル/円は94.262円まで下落。ただ、売り一巡後は緩やかに買い戻された。
6日	豪準備銀行(RBA)は政策金利の据え置きを決定。声明文で「緩和的な金融政策の継続が需要を支え、しばらく成長の押し上げに寄与」としたのを始め、労働市場の改善や中立的な政策スタンスの維持などが示された事を受けて豪ドル/円は上昇するも、直後の反応は一時的。ただ、その後、資源国通貨買い・ドル売りの流れから豪ドル/米ドルが上昇すると、95.151円まで再び上昇した。
8日	豪4月失業率が予想(5.9%)を下回る5.8%、新規雇用者数は予想(0.88万人増)を上回る前月比1.42万人増となった事を受け、豪ドル/円は発表前の水準から約50銭上昇した。中国4月貿易収支が184.6億ドルの黒字と予想(167.0億ドルの黒字)を上回ったことも追い風となった。
9日	RBAは四半期金融政策報告で「現在の金融政策は適切である」「2014年6月までのインフレ見通しを2.75%に引き下げ」「2014年6月までの成長率見通しを3.00%に引き上げ」とのスタンスを示した。今年2月時点と比べ、成長率見通しを引き上げる一方でインフレ見通しを引き下げたことから、発表後の豪ドルは乱高下した。
13日	豪政府は予算案で、14年度の国内成長率(GDP)見通しを2.5%と13年度の2.75%から減速するとの見方を示した。しかし、豪ドル相場の反応は薄かった。
20日	RBA議事録が公表され、「現在の低金利は当面適切」との見方が示された事や、欧米株が軟調に推移した事を受けて、豪ドル/円は93.568円まで下落。前日に格付け会社S&Pが「今年度以降、目覚ましい赤字削減策が行われなければ、豪信用格付け『AAA』を見直さざるを得ない」との見解を示したことも重石となった
21日	日銀の黒田総裁の会見から当面、追加緩和がなさそうだとの見方が拡がる中、仕掛け的な円買いが入り、豪ドル/円は93.043円まで下落。ただ、その後は米国債利回りの上昇を受けてドル/円が上伸すると、反発した。
29日	豪第1四半期民間設備投資が前期比-4.2%と予想(-1.5%)を下回り、豪ドル/円は93.673円まで下落した。ただ、2014-15年度の設備投資計画が1371億豪ドルと今年2月時点(1249億豪ドル)から上方修正された事などが好感され、売りが一服すると94円台に反発。NYダウ平均株価が堅調に推移すると、94.731円まで一段高となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

5月の豪ドル/円相場は93.043～96.084円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.2%の小幅下落（豪ドル安・円高）となった。ドルやユーロに対して豪ドル買いが優勢となるも96円ちょうど前後で伸び悩む一方、豪格下げ懸念からくる豪ドル売りや本邦追加金融緩和観測緒後退からくる円買いなどが出たが93円台前半で下げ渋るなど、相場を動かす決定打を欠き、前月に続き狭いレンジでもみあいとなった。

足元の豪ドル/米ドルがこう着感を強めている事や、今月豪国内では目玉となる経済イベントを欠いている事などから、今月の豪ドル/円は先月の高安のブレイクを待つ展開となりそうだ。

先月RBAは理事会にて依然として鉱業部門の設備投資について慎重な姿勢を示していることから、早期に現在の政策スタンスを変更する可能性は低そうだ。また、エコノミスト予想は金利据え置きがコンセンサスとなっており、今回は無風通過の公算が大きい。仮に声明文で豪ドル高をけん制したとしても、豪ドル/米ドル相場が足元のレンジ（概ね0.92ドル前半～0.94ドル前半）を超えない限り、先月同様強い口調にはなりにくいと見る。

その他、米5月雇用統計やFOMC、中国の各種経済指標もまた、豪ドル/円相場を動かす手掛かり材料となろう。（川畑）

（予想レンジ：92.100～97.400円）

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

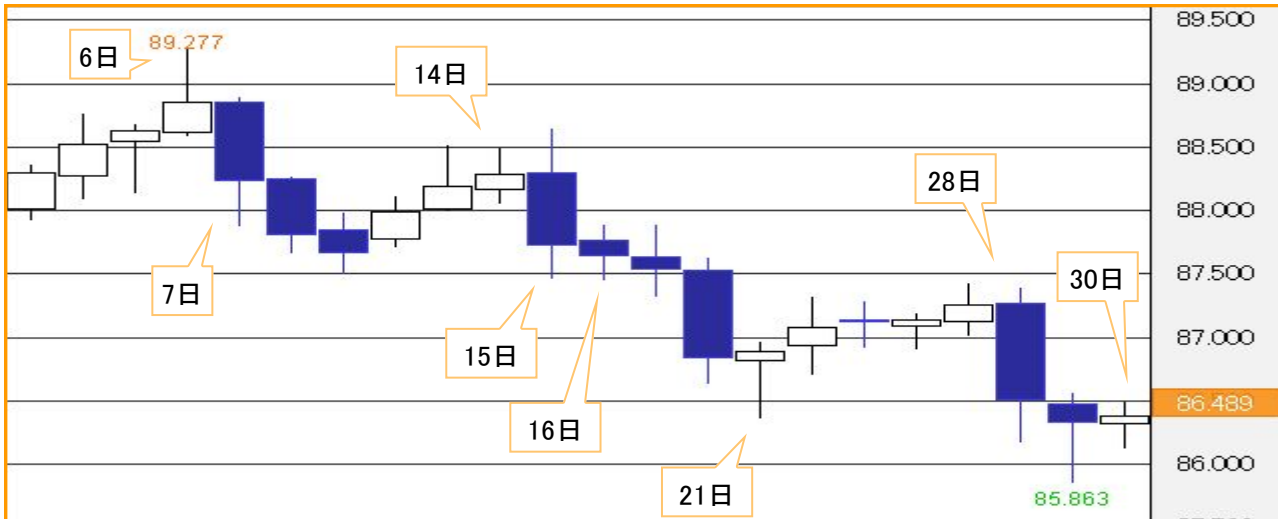
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
6/2(月)	4月豪住宅建設許可件数	6/12(木)	5月豪雇用統計
	5月米ISM製造業景況指数		5月米小売売上高
6/3(火)	4月豪小売売上高	6/13(金)	日銀金融政策決定会合(12日～発表)
	RBAキャッシュターゲット		5月中国鉱工業生産
6/4(水)	第1四半期豪GDP		6月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	5月米ADP全国雇用者数	6/17(火)	RBA議事録
	5月米ISM非製造業景況指数	6/18(水)	米FOMC政策金利発表
6/5(木)	4月豪貿易収支	6/23(月)	6月HSBC中国製造業PMI・速報
	欧州中銀金融政策発表		
6/6(金)	5月米雇用統計		
6/8(日)	5月中国貿易収支		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

NZドル/円 5月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	88.017円	89.277円	85.863円	86.390円



6日	オセアニア通貨買い・ドル売りの流れからNZドル/米ドルが上昇すると、NZドル/円は一時89.277円まで連れ高となった。
7日	NZ準備銀行(RBNZ)のウィーラー総裁が「ファンダメンタルズがさらに悪化すれば、RBNZは介入する可能性がある」と発言した事や、NZ第1四半期失業率が6.0%(予想:5.8%)となった事などから、NZドル/円は下落。NZドル/米ドルが下げ足を速めると87.891円まで一段安となった。
14日	NZ第1四半期小売売上が前期比+0.7%と予想(+0.9%)を下回った事や、ウィーラーRBNZ総裁が「日本がより多くの(NZドルの)キャリートレードの源」と発言した事などから、NZドル/円は88.126円までやや下落。ただ、その後はオセアニア通貨に対しドル売りが優勢となり、NZドル/米ドルの上昇に連れて88.490円まで反発した。
15日	NZ政府は「2014-15年の財政収支を3.72億NZドルの黒字と予想」と7年ぶりの黒字を見込み、国内成長率(GDP)見通しは2014年4月-15年3月が4%と昨年12月時点(3.6%)から上方修正したが、直後のNZドル/円の反応は限定的。その後は欧米株の軟調推移を嫌気して87.471円まで下落した。
16日	NZのイングリッシュ財務相が「NZドルはやや高いように見える」と発言したが、市場の反応は薄かった。
21日	日銀の黒田総裁の会見から当面、追加緩和がなさそうだとの見方が拡がる中、仕掛け的な円買いが入り、NZドル/円は86.374円まで下落。ただ、その後は米国債利回りの上昇を受けてドル/円が上伸すると、反発した。
28日	早朝にNZ乳製品大手フォンテラが、酪農家からの来期の乳製品の買い取り額を1kg当たり7NZドルとすると発表。事前予想(6NZドル)よりも高かったため、NZドル/円が87.388円まで上昇。しかし、NZ5月ANZ企業景況感が53.5(前月:64.8)と3ヵ月連続で低下したことが嫌気されて反落した。
30日	NZ4月住宅建設許可件数が前月比+1.5%と予想(-3.5%)外の強い結果となった。これを受けてNZドル/円は86.40円台まで値を上げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

5月のNZドル/円相場は85.863円～89.277円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.9%の下落(NZドル安・円高)となった。オセアニア通貨買いの流れを背景に89円台に乗せるも、前月に続き90円の大台を前に失速。その後はNZ政府要人からNZドル高けん制発言が相次いだことや、予想を下回るNZ経済指標が複数発表されたことなどから、じり安で推移した。

今月、NZで金融政策が発表される。現時点でのエコノミスト予想は、0.25%利上げが優勢となっている。仮に利上げが実施される場合、その声明で、今後の利上げペースやNZドル相場についての見解が示されるか注目したい。なお現時点では少数派であるが、一部には据え置き予想もある。ただし、金利が据え置かれたとしても、年内の金利引き締めペースの緩和を示唆する発言が出ない限り、NZドル売りの動きが出たとしても一時的となろう。

それ以外では、足元でこう着した為替相場が動き出すきっかけとなるか、米5月雇用統計や米FOMC政策金利発表、中国の経済指標にも注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 84.000～89.000円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

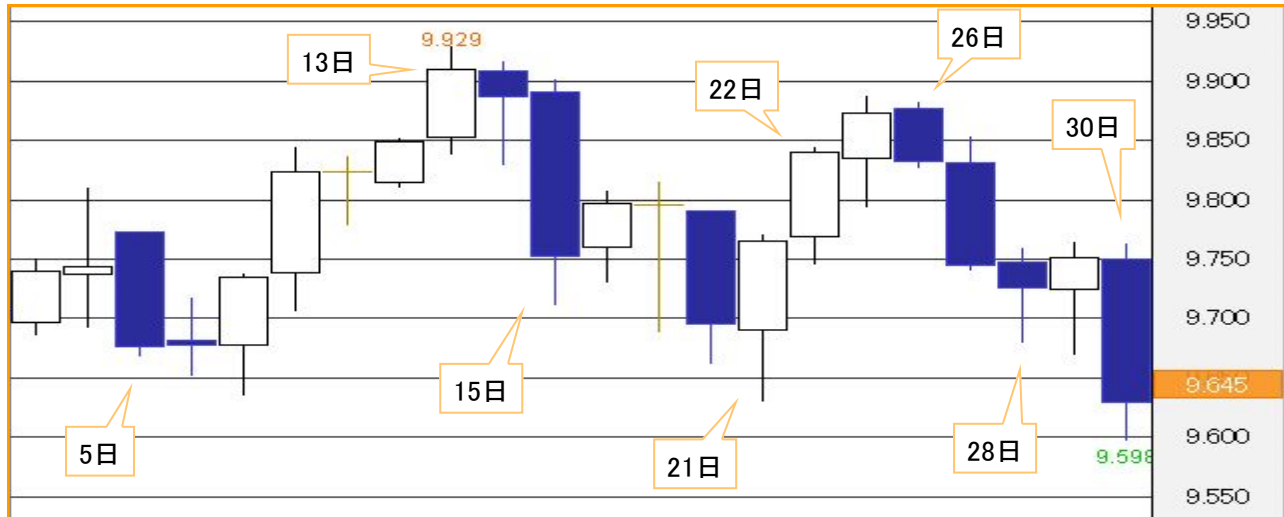
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
6/2(月)	5月米ISM製造業景況指数	6/13(金)	5月中国鉱工業生産
6/4(水)	5月米ADP全国雇用者数		6月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
	5月米ISM非製造業景況指数	6/18(水)	米FOMC政策金利発表
6/5(木)	欧州中銀金融政策発表	6/23(月)	6月HSBC中国製造業PMI・速報
6/6(金)	5月米雇用統計	6/27(金)	5月NZ貿易収支
6/8(日)	5月中国貿易収支	6/30(月)	5月NZ住宅建設許可
6/12(木)	RBNZオフィシャル・キャッシュレートの 5月米小売売上高		
6/13(金)	日銀金融政策決定会合(12日～発表)		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 5月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.697円	9.929円	9.598円	9.630円



5日	南ア第1四半期失業率が25.2%(予想:24.7%)と昨年第2四半期(25.3%)以来の水準に悪化するも、ランド/円相場の直後の反応は限定的。しかし、その後は欧州株の軟調推移を受けて9.670円まで値を下げた。
13日	格付会社ムーディーズが(7日に投票が行われた)南アフリカ総選挙の結果は同国の格付けにプラスとの見方を示した。これを受けてランド/円は1月以来となる9.929円まで上昇した。
15日	NYダウ平均株価の軟調推移や、ユーロ/ランド相場でユーロ買い・ランド売りが強まった事などから、ランド/円は一時9.712円まで急落した。
21日	日銀の黒田総裁の会見から当面、追加緩和がなさそうだとの見方が拡がる中、仕掛け的な円買いが入り、ランド/円は9.631円まで下落。ただ、その後はドル/円の反発や、NYダウ平均株価の堅調推移を受けて9.771円まで反発した。なお南ア4月消費者物価指数は前年比+6.1%(予想:+6.0%)と南ア準備銀行(SARB)のインフレ目標(年3~6%)の上限を突破したが、反応は限定的であった。
22日	SARBは大方の市場予想通り、政策金利の5.50%据え置きを決定。声明で「インフレ上振れリスクへの対応と国内経済成長見通しの悪化という難しいジレンマに直面」とするも、「我々が金利上昇サイクルにあり、金利はしかるべき時期に正常化する必要があるとの見解を維持し続ける」としたほか、今回の決定に7人の委員のうち5人が賛成(2人は利上げを主張)したことが明らかとなった。市場でSARBの次の一手は利上げとの見方は変わらなかったことから、直後はランド買いが優勢となり、ランド/円は上昇。NYダウ平均株価の上伸もあり、その後9.844円まで一段高となった。
26日	前日に南アのズマ大統領が内閣改造を発表し、ゴードン前財務相に代わりネネ財務副大臣を昇格させると発表した。前財務相と比べ政治力を欠き、また、前財務相が2009年以来進めてきた財政赤字の削減努力が損なわれるのではとの懸念を背景に、ドル/ランド相場が堅調に推移(=ランド安)。これを受け、ランド/円は9.828円までやや値を下げた。
28日	南ア第1四半期国内総生産(GDP)が前期比年率-0.6%(予想:-0.1%)と、2009年第1四半期以来となるマイナス成長となった。これを嫌気して、ランド/円は9.60円台まで売られた。
30日	南ア4月貿易収支が130億ランドの赤字、南ア4月財政収支は401億ランドの赤字(予想:113億ランドの赤字、350億ランドの赤字)となった。これらをきっかけにランド売りが優勢となり、ランド/円は9.598円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

5月のランド/円相場は9.598円～9.929円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは0.7%の下落(ランド安・円高)となった。同国大統領選の無難消化を好感して値を上げるも、10円の大台を前に伸び悩み。その後は南ア第1四半期GDPを始め予想を下回る同国の経済指標や、本邦の追加金融緩和観測の後退を受けた円買いなどにより反落した。

先月発表された南アGDPは同国のプラチナ鉱山のストが影響しており、今月も同国のストが収束に向かうかが引き続き焦点となろう。ストの長期化により国内経済に影響が出ており、長引けば長引くほど国内経済への影響が懸念される。もし、国内経済が一段と悪化するようならば、SARBの利上げ観測の後退(または利上げ幅の縮小)につながる事も考えられる。ストの長期化によりそれ自体が取引材料となることは少なくなったが、少なくともストが収束しない間は積極的にランドを買う理由は乏しい。

先月の為替相場はユーロを除き、全般的に様子見ムードが強かった。今月はこう着感を打破できるかという点で、米5月雇用統計に注目したい。事前予想は強気な内容となっており、予想を上回る結果となれば米利上げ観測が再燃するきっかけとなり得る。その場合のランド/円相場の影響については、米国株の反応が焦点となりそうだ。株価が上昇すればランド/円相場の追い風となることが予想される一方、株安が進めばランド売り要因となるだろう。(川畑)

(予想レンジ: 9.100～9.900円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
6/2(月)	5月米ISM製造業景況指数	6/13(金)	6月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
6/4(水)	5月米ADP全国雇用者数	6/18(水)	米FOMC政策金利発表
	5月米ISM非製造業景況指数		5月南ア消費者物価指数
6/5(木)	欧州中銀金融政策発表	6/23(月)	6月HSBC中国製造業PMI・速報
6/6(金)	5月米雇用統計	6/26(木)	5月南ア生産者物価指数
6/8(日)	5月中国貿易収支	6/30(月)	5月南ア貿易収支
6/12(木)	5月米小売売上高		
6/13(金)	日銀金融政策決定会合(12日～発表)		
	5月中国鉱工業生産		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。